



新町地蔵踊り

香々美地区新町は、江戸時代初期、津山藩主森忠政が津山―倉吉間の街道である倉吉往來を整備した際に、津山城下町から最初の宿駅として置かれた村です。現在の町並みにもその面影が残され、新町が人馬の継ぎ立てをする駅伝や宿場町として栄えていたことがうかがわれます。

その新町の町並みの一隅に地藏堂があります。棟札によると宝暦四年（二七五四）五月、天明五年（二七八五）、明治四十四年（一九一一）、昭和三年

新町地蔵踊り

（一九二八）、昭和四十八年（一九七三）七月に改築または再建されているようです。

この地藏堂の前で、毎年七月二十三日の夜、近郷近在の人々が集まり地蔵踊りが行われてきました。言い伝えでは、天正の頃（一五七三―一五九一）から豊年を祝う踊りとして始まり、以来一年も休むことなく現在まで行われてきたと言われていますから、四〇〇年以上も続けられていることになります。

天正期といえは安土桃山時代にあたり、ちょうど織田信長や豊臣秀吉が活躍していた時期で、新町の北にあった枳形城（きぎがた）では、天正七年（一五七九）に、毛利方の城将福田勝昌と宇喜多直家による合戦がありました。『陰徳太平記』（享保二年（一七一七）刊行）という軍記物語では、福田勢はわずか五〇〇騎の兵で奮戦し、二万余の宇喜多勢を退散させたとあります。地蔵踊りはこの枳形城の合戦で戦死した人を弔うために始まったという説もあります。

江戸幕府八代将軍徳川吉宗が活躍した江戸時代中頃の享保期（一七一六―一七三五）には、歌舞音曲が一般に停止された時も地蔵踊りは災害厄



地蔵堂

除の踊りとして、踊ることが許されたいと思います。

また、天保五年（一八三四）の新町の大火災の際には、北から燃え広がった炎が地藏堂まで迫った時に突然強い南風が起り、火がおさまったことから、病氣、災害などの厄除けの御利益があると信じられてきました。

踊りは「四つ拍子」が主体で、他に「願力」、「チョイチョイ踊り」があり、太鼓と音頭に合わせて、やぐらの周りで踊ります。

現在は新町地蔵踊り保存会を中心に地域の皆さんの協力で、七月二十三日に一番近い土曜日に行われています。

今年は七月二十四日（土）の午後八時頃から地藏堂前で開催されます。四〇〇年以上の伝統をもつ町指定重要無形民俗文化財「新町の地蔵踊り」に皆さんも是非参加してみてください。

奥津歴史資料館企画展 恩原遺跡群 開催中

奥津歴史資料館では、現在上半期企画展「恩原遺跡群」を開催中です。恩原遺跡群は、鏡野町で最も古い約3万年前からの旧石器時代の遺跡が見つかったおり、今年3月に岡山県指定重要文化財（史跡）に指定されました。



今回は、岡山大学考古学研究室の協力を得て、恩原遺跡群出土のナイフ形石器や細石器などの旧石器時代・縄文時代の遺物を借用して展示しています。

鏡野町最古の歴史をこの機会に是非ご覧になって下さい。

奥津歴史資料館

鏡野町奥津82-1（奥津温泉街北端）

TEL0868-52-0888

開館時間 午前9時～午後4時30分

休館日 毎週月曜日・祝日の翌日